



2012年年頭所感

発災地から社会や

ケアのあり方発信
ゼロ法人全員ミーティングサポートセミナー 池田昌弘理事長

昨年起こった東日本大震災は、高齢化にともない認知症が増え続ける現状を、災害弱者とりわけ認知症等の高齢者にとって厳しい体験を強いられたと報じられる中で、改めてその現実を知らしめることになりました。また、この震災は、自分にとって真に必要なものは何なのかを考え直す機会にもなり、今まで以上に安心・安全というものに価値を求める時代になったと言えます。

グロージアは、フェルガードをより安心してお使いいたいだくために、多くの大学、国立病院と臨床研究を実施していくところとなりました。でもある限り要望に応える製品の開発に今年も邁進してまいります。

評価問われる年に
シニアライフ研究所 高沼 薫所長

私たちば、東日本大震災の
発災地にあるNPOとして
全国の仲間たちとともに介
護・看護職の派遣や現地ニ
ア調査を行い、現在も支援者
研修やおもちゃ・絵本図書館
等の運行、仮設住宅でのサロ
ン運営などに取り組んでおり
ます。故郷の仲間との絆をつ
なぎ直し、仮設住宅等での新
たな紹介づくりを支えて、まだ
原発事故により全国に離散し
た人たちと地元をつなぎ手立
てが求められています。

いまこそ「誰もが地域でそ
の人にいふ」暮らせる社会を
築くため、皆が望む社会やケ
アのありようを追求し、被災
地から発信していくたいと考
えています。

きな反響をいたしました。論点をまとめるに、老人ホームとして認知症の予防や進行抑制によって今まで踏み込んだ活動をするべきか、また、介護アートと生活ケアの違いについてです。

10月に法人初となる、小規模多機能型グループホーム「高齢者住宅との複合施設『さくら』」を開設し、開設からわずか4カ月で、全とのサービスが満員となりました。

開発にあたって、最も気をつけていたのは施設のしくみ。施設を作りたいところと、じぶんた。常に「進取の精神をスタッフが持ち続ける」そんな環境をつくることが、「3階

入するのにも増えていました。入居者に本当に生活ケアをしようと思われるのを、介護とともに（想い出す）のケアも必須だと感じます。

サージスさむら 村居多美子理事長
のサービスへ付き高齢者向け住宅の住民」「2階のグループホームの利用者様」「1階に通じて来られる利用者様」の笑顔に繋がると信じております。

本年は、6年に一度の診療報酬と介護報酬の同時改定の中であり、医療・介護業界に於いては大きな節目の年になります。ただでなく、社会保障制度全体にとっても、税制との一体改革の内容が具体化する重要な年になります。

弊社法研では、『週刊社会保障』や『月刊介護保険』等の情報誌を通して、皆様に高品質な情報を迅速に提供できます。よって、社員一丸となって邁進してまいりますので、本年もよろしくお願い申し上げます。

上海福祉情報局
迅速に提供

W A B I N G O - A C H I E V E M E N T 王 青代表

チムジルバン(韓国式言語) 営業
などアイディアを生かした設 用とい
計を心がけて来ました。して、
「高齢者の楽しみは、食事 す。



2012年年頭所感

□腔ケニア提供 施設と 歯科医院の架け橋に

ウイルアドバンス 三沢順子社長

中小規模施設に 食事システム提供

「ない」が現在の社会情勢の中
でどのような状況下でも受け
入れられるものである。と再
会の実現に邁進する所存で
進むことになる。二〇〇三年の夏の頃、ヨ

デイFC・直
年内50